

# EMT 140 Plate Reverb

## 概要

独EMT社は1957年にEMT 140(アンビエンス効果を生成するため金属板を用いた)の開発・販売に着手します。プレートリバーブのなめらかで腰のあるサウンドは、現代音楽の構成要素の一つとして今なお受け継がれています。しかし、プレートリバーブは、システム構造上、大がかりで高価、さらに外部からのあらゆる振動に敏感な点やメンテナンスが大変なことから、少数のメジャースタジオでしかお目にかかれなくなりました。

Universal Audioは、あの紛れもないサウンドをEMT 140プラグインで忠実に再現しています。Universal AudioのDSP回路デザイン技術者が4ヶ月かけて実際に耳で聴いてチューンし作り上げたもので、米国カリフォルニア州・サウスリートにあるプラントスタジオのキャラクターの異なる3台のEMT 140を見事に再現しました。2000ポンドの高額で大がかりなサウンドが一つのプラグインに収められたこととなります。Universal Audioは、ドイツのEMT Studioteknik GmbHから本物のプレートリバーブエミュレーション技術に関する正式ライセンス認証を獲得しました。以前では不可能かつ夢の夢だったミックス用機材が、ユーザーであれば誰でも、手の届くところへやってきたのです。

我々は、様々な局面を持ったEMT 140システムを便利な1枚のパネルに凝縮しました。もちろん、ディケイを調整するオリジナルダンパー"Damper"コントロールはそのまま残し、現代のDAWユーザー用に便利な機能を加えました。

## EMT 140 スクリーンショット



図 123. UAD EMT 140 プラグインウィンドウ

## EMT 140コントロール

EMT 140のインターフェイスはプレートアンプ自体とリモートダンパーコントロールの組み合わせで成り立っており、ここへ新たに幾つかのDAWコントロールパラメーターを追加しました。GUIはオリジナルEMT 140を模し、DAWに必要なコントロール部分だけを使用します。

注：パラメーターを設定する際、様々なキーボードショートカットを利用できます。ショートカットに関しては前述「ショートカット」を参照してください。

### 入力フィルター "Input Filter"

"Input Filter"は、リバーブの低周波成分をカットするための専用イコライザーです。ハードウェアのプレートシステムでは、この設定は減多に調整できません。というのも、プレートアンプユニット自体にあり、コントロールルームから簡単にアクセスできないためです。

EMT 140は、2種類のフィルターを搭載しています：プレートA、およびBではオリジナルEMT回路を、プレートCにはMartech社製のレトロな回路を使用しています。



プラントスタジオのモデルとなったユニットにおいても同様に、プレートA、BにはEMT回路を、プレートCにはMartech回路を採用しています。プラグインのEMT 140においても、ユーザーは任意のフィルタータイプも使用しながら、3枚のプレートを自由に使い分けることが可能になります。

オリジナルEMTフィルター（黒色テキスト表示）は、80Hzをセンター周波数とするカットフィルターで、以下3通りのアッテヌエーションレベルを選択できます：-4dB、10dB、16dB。コントロールモードでは、これらの設定値は、オリジナルEMT回路モデルを示す頭文字「E」と共に表示されます。

Martechフィルター（赤色テキスト表示）はシェルフフィルターで、値より小さい周波数は減衰します。6通りのシェルピング周波数を設定できます：90 Hz, 125 Hz, 180 Hz, 250 Hz, 270 Hz, 360 Hz。コントロールモードでは、これらの設定値は、Martech回路モデルを示す頭文字「M」と共に表示されます。

注：プラグインインスタンス毎に、1つの"Input Filter"が搭載されています。プリセット中のそれぞれプレートモデル（A、B、C）の"Input Filter"値を設定することはできません。

## リバーブコントロール

プレートリバーブの構造は極めてシンプルです：リモートダンパーの設定、ハイパスフィルターやシェルビングフィルターがプレート自体に組み込まれています。追加されたコントロールには、リバーブリターンEQがあり、これは通常コンソール上で処理されます。プリディレイは、リターン信号をテープデッキに送るテープディレイで生成されます。テープスピードを変更することで、プリディレイ量を変えることが可能になります。



オリジナルのダンパーコントロールはリモートコントロールになっており、操作を素早く行うために常に専用コントローラーが常備されていました。プラグイン EMT 140では、ハイブリッドパネルに3種類のシステム選択スイッチを備え、3台のリモートコントロールをパネルに組み込んでいます。

注：リバーブコントロール（プレート選択、リバーブタイム）は、他のプラグインコントロールと完全に独立しています。

## プレート選択スイッチ"Plate Select"

3つのプレートモデル（アルゴリズム）を素早く選択することができます。スイッチはアクティブなプレートを指し示します。

各プレートモデルの設定は完全に独立しています。つまり、ユーザーは3台のEMT 140システムを保有していることになります。

注："Plate Select"、および"Reverb Time"の上にあるA、B、Cの文字をクリックすると、任意のプレートを選択できます。



### リバーブタイムメーター”Reverb Time Meter”

リバーブタイムメーターは、プレートA/B/Cのリバーブタイムを秒単位で表示します。アクティブなプレートのメーター表示が点灯します (Plate Selectスイッチが指し示している)。



### ダンパーコントロール”Damper Controls”(Reverb Time)



Reverb Timeメーターのすぐ下にあるダンパーコントロールは、各プレートのリバーブタイムを変更します。設定可能な範囲は0.5 ~ 5.5秒で、0.1秒単位で指定できます。

ボタンをクリックするとリバーブタイムが増減します。

注：リバーブタイムは、対応するダンパーコントロールの代わりに、Reverb Timeメーターの針をドラッグして変更することも可能です。

### ステレオコントロール”Stereo Controls”

#### ステレオ幅”Width” ノブ



ステレオ幅”Width”ノブは、EMT 140のステレオイメージを制限します。設定範囲は 0 ~ 100%です。設定値が”0”の場合は、EMT 140のリターン信号がモノラル信号になります。100%の場合、ステレオリバーブ範囲は最大になります。

#### バランス”Balance” ノブ



このコントロールは、リバーブリターン信号の左右チャンネルのバランスを調整します。ノブを左方向に回すと右チャンネルが減衰し、反対方向に回すと逆の現象が起こります。(モノラルのパンニングコントロールとは異なります)

### EQコントロール”EQ Controls”

このパラメーター群には、EMT 140のEQコントロールが含まれています。これは2バンド方式 (高域/低域) のシェルビングEQで、音色を形作るオプションとして、アナログサウンドアルゴリズムを採用しています。

EQセクションはリバーブアルゴリズムやプレートリバーブ上のカットフィルター

からは独立しています。カットフィルターに関しては「カットフィルター」の項目を参照してください。

周波数”Frequency”パラメーターは、トランジションバンドの中心周波数を示しています。中心周波数とは、音量レベル（dB）が、DCとバンドエッジレベルの中間地点にある周波数を意味します。

注：使用できるEQはインスタンス毎に1つとなります。各プレートモデル(A/B/C)内のEQに個々のプリセットを割り当てることはできません。



### EQ Enableスイッチ

EMT 140 EQは、EQ Enableスイッチを使って無効にできます。EQが有効の状態でも、UADのDSP負荷は増加しません。

### Low Frequency（低周波）ノブ

このパラメーターは、ローバンドゲイン設定により、ブースト/アッテネートしたローシェルピング部分のトランジション周波数を指定します。設定範囲は20Hz ~ 2kHzです。

これはシェルピングEQになるため、ローバンドゲイン設定値以下のすべての周波数帯域は影響を受けることになります。

### ローゲイン”Low Gain”ノブ

このパラメーターは、トランジション周波数設定によって、低域部分をどれだけブースト/アッテネートするかを設定します。設定範囲は±12 dBで、0.5 dB単位、あるいは1.0 dB単位で設定します。

### High Frequency（高周波）ノブ

このパラメーターは、ハイバンドゲイン設定により、ブースト/アッテネートしたハイシェルピング部分のトランジション周波数を指定します。設定範囲は200Hz ~ 20kHzです。

これはシェルピングEQになるため、ハイバンドゲイン設定値より上のすべての周波数帯域は影響を受けることになります。

### ハイゲイン”High Gain”ノブ

このパラメーターは、トランジション周波数設定によって、高域部分をどれだけブースト/アッテネートするかを設定します。設定範囲は $\pm 12$  dBで、0.5 dB単位、あるいは1.0 dB単位で設定します。

### モジュレーション”Mod”コントロール

EMT 140リバーブタイムは、”RATE”、もしくは”DEPTH”コントロールをつかってLFO変調することが可能です。効果は微細なものですが、音の分散やソース素材の発振を抑えることが可能になるため、突然のエンディングやパーカッシブな素材に対して有効です。

#### Mod Rate

Mod Rateコントロールは、リバーブタイムモジュレーションのRATEをコントロールします。設定範囲は、0.01Hz ~ 1.0Hzです。

#### Mod Depth

このパラメーターはリバーブタイムモジュレーション量を調整します。設定範囲は、0 ~ 10 centsです。

### 出力VUメーター



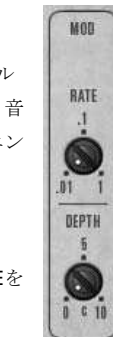
ビンテージスタイルのVUメーターは、プラグインの出力レベルを表示します。パワースイッチがONの場合、有効となり、OFFにするとゆっくりとゼロの位置に戻ります。

### ブレンドコントロール ”Blend Controls”

#### プリディレイ”Predelay”

ドライ信号とリバーブ開始位置の調整は、このノブでコントロールします。設定範囲は、0.0~250ミリ秒です。

設定値を低くすると、このコントロールは解像度を上げるため対数スケールを用います。ノブが12時位置にある場合、値は50ミリ秒となります。



### ミックス”Mix”



Mixコントロールは、オリジナル信号とエフェクト信号を混ぜ合わせる比率を調整します。設定範囲は、Dry(0%、オリジナル信号のみ) ~ Wet(100%、エフェクト信号のみ)です。設定値を低くすると、このコントロールは解像度を上げるため対数スケールを用います。ノブが12時位置にある場合、値は15%となります。

注：Wet Soloが有効の場合、このノブを回しても効果はありません。

### ウェットソロ”Wet Solo”



Wet Soloボタンを押すと、EMT 140は”100% Wet”モードとなり、Mixノブの値を”100%”にした状態と同じになります。Wet Soloボタンは初期状態でONになっています。EMT 140は”Classic”リバーブ設定（チャンネルセンドで信号をエフェクトグループ/バスに送る場合に最適）となっています。EMT 140をチャンネルインサートとして用いる場合は、このコントロールをOFFにします。

注：Wet Soloはグローバルコントロールです（EMT 140インスタンス毎）。設定はプリセットに保存されません。

### パワースイッチ”Power Switch”



このスイッチは、EMT 140のON/OFFを切り替えます。たとえば、エフェクトを適用したオーディオとオリジナルオーディオ素材の聞き比べをする際、あるいはUAD DSP消費量を減らしたい場合（UAD-2 DSP LoadLock使用の場合を除く）などに、このスイッチ一つで切り替えが可能になります。プラグインがアクティブの場合は、赤色のEMTパワーインジケータが明るく点灯します。

注：EMT 140は、1800ポンド以上の価値があるクラシックビンテージリバーブを一つのプラグインに組み込んでいます。持ち運ぶ際には注意しましょう！

